

オートミルク

アレルギー、健康、サステナビリティ、動物福祉といった問題が大きくなる中WGSNはプラントベースのライフスタイルが浸透する2014年に予測を発表した。2018年になると、プラントベース食品は、一般販売の全ての食品の売上高成長率の10倍を示すようになった。その中でもオートミルクは米国と英国において最も成長が著しいプラントベースミルクになった2020年、WGSN Food & Drinkは「トレンドカーブ: オートミルク」レポートでオートミルクの今後の可能性を探っている。



2014

大豆タンパクを使用した代替食からクリーミーな味わいの代替オートミルクまで、**プラントベース及び肉食減量主義(リデュースタリアン)のライフスタイル、乳製品不使用の代替食品が浸透**すると「食品産業の進化と現代のミルク」レポートで予測を発表。

2017

WGSNは、**プラントベースの代替肉が知られるようになり、カテゴリ拡大を促す**と指摘し、代替乳製品の急成長に注目した。

WGSNによる「新飲料」コーヒーレポートでは、**ヨーロッパのカフェで人気を集めるスウェーデンの代替ミルクブランドOatly**を取り上げた。同ブランドの製品は米国でも発売。

WGSNは「**秋冬 キーフレーバー&原料**」レポートでオートミルクにスポットライトを当てた。

12月までにOatlyは米国全土で販売を開始し、熱狂的なファンは200ドル以上を払ってAmazonで同ブランドの製品を購入した。

競合企業がこの機会に目を向け、代替ミルク市場で新しいブランドが登場した。

2018

WGSNは「**10 キーフード&ドリンクトレンド 2019**」レポートでオートミルクを取り上げ、動物性と植物性のブレンド食品がトレンドになると予測。オートミルクベースのアイスクリームのような非乳製品のフローズンデザート、ビーガンチョコレートバー、ラクトースフリーの乳植物由来のハイブリッド食品などを紹介した。

米国でのオートミルクの売上は引き続き伸びを見せ、2017年の440万ドルから大幅に増加して8400万ドルに達した。

2019

WGSNは**新型コロナウイルスの影響により、プラントベースのトレンドが加速すると予測**。3月中頃になると、オートミルクの1週間の売上高は前年同期比347%増を記録した。

世界の乳製品代替市場は2025年までに380億ドル相当の規模に達する見込みで、2020年から年平均成長率は15%を示し、Oatlyの中国市場への進出が成長の一因となる

2020